

# 少しずつ、明かりを増やそう

空き家や「開かずの間」が  
誰かの夢の舞台に

いま鳥取市街地には、約160件の空き家があります。不動産業者などを通して活用されるのを待つものもありますが、誰にも使われないまま放置されている空き家もあります。

その中には、まだまだ役に立つ建物があります。空き家だけではありません。店じまいしたままの店舗住宅の1階、住む人がなくなった2階など、役に立つ空間は、たくさんあるのです。

「もったいないから、使おうよ」。リノベーションは、そういうシンプルな考え方です。お店を開いたり、仲間が集まる空間にしたり、住居にしたり、使い方はアイデア次第。眠っている空間には、大きな可能性があるので。

そうはいつでも、実際に行動を起こすにはいくつかの壁があるでしょう。まず、自分にぴったりの「もったいない空間」をどのように探すか。または、空間を借りてくれる人に出会えるかどうか。改修が必要な場合、費用をどうするか。PRもしたい。

そうしたリノベーションに関する課題解決を後押しする仕組みを、鳥取市が作ります。みなさんの「これをしてほしい！」が、実現しやすくなるはず。この冊子では、その仕組みについて紹介します。

眠っていた空間に、リノベーションによって再び明かりが灯ると、まちがほんの少し、明るくなります。その明かりをたくさん「もったいない空間」に灯していけば、まち全体が輝いて、暮らす人も、よその人も「素敵なまちだな」と感じられる——そんなまちを目指すのが「リノベーションまちづくり」です。

明かりを灯すのも、それを応援し、楽しむのも、私たち市民です。「リノベーションまちづくり」は、すべての市民がそれぞれの立場で、まちを育てるプロジェクト。鳥取のまちがこれから輝きを増すかどうか、一人ひとりにかかっているのです。

# 「リノベーションまちづくり」計画書ダイジェスト版 構成案等

- 漫画＋解説文で、最大9種類のパターンを提示し、「リノベーションまちづくり」とは何か、市民や行政はどのように関わり、どのようなまちへの成長が期待されるかを、ユーモアを交えながら説明する。

## 1) プレーヤーとなる人たち

- ・やりたいことがあるけど資金や場所など悩んで踏み出せないプレーヤー予備軍に、「リノベーション」という実現方法があることを紹介する。
- ・相談窓口を掲載する。

## 2) オーナー

- ・不動産商品になっていない物件を持つオーナーに寄り添いつつ呼びかけるような内容

## 3) 家守舎×2パターン

- ・家守舎の役割を紹介する。必ずしも利用しないことを記す。
- ・ホンバコのケースを参考に、
  - 3-1) オーナー紹介とサブリース
  - 3-2) D I Yプロデュース、ワークショップ企画 などの役割を紹介

## 4) 空き家の工事をしないパターン

- ・ハードウェアに手を入れなくても、アイデア一つで変身することを伝える。
- ・リノベーション＝リフォーム・工事というイメージを払拭する。

## 5) 行政の関わり方

- ・行政がリノベーションまちづくりで担う役割を伝える。
  - ↳現場で物件探しをしたり、現場周辺の住民やオーナーの話を聞いて情報収集
  - ↳その情報を家守舎やプレーヤーに提供する

## 6) プレーヤー、オーナー以外の市民の関わり方

- ・自身がプレーヤーにならなくても、ワークショップに参加したり、できたお店やサービスを利用するなど応援することもリノベーションのまちづくり一環であることを伝える。
- ・無関係な人はいない、誰にとっても関わりがあることだよ、ということ伝える。

## 7) 公共の一翼を担う民間

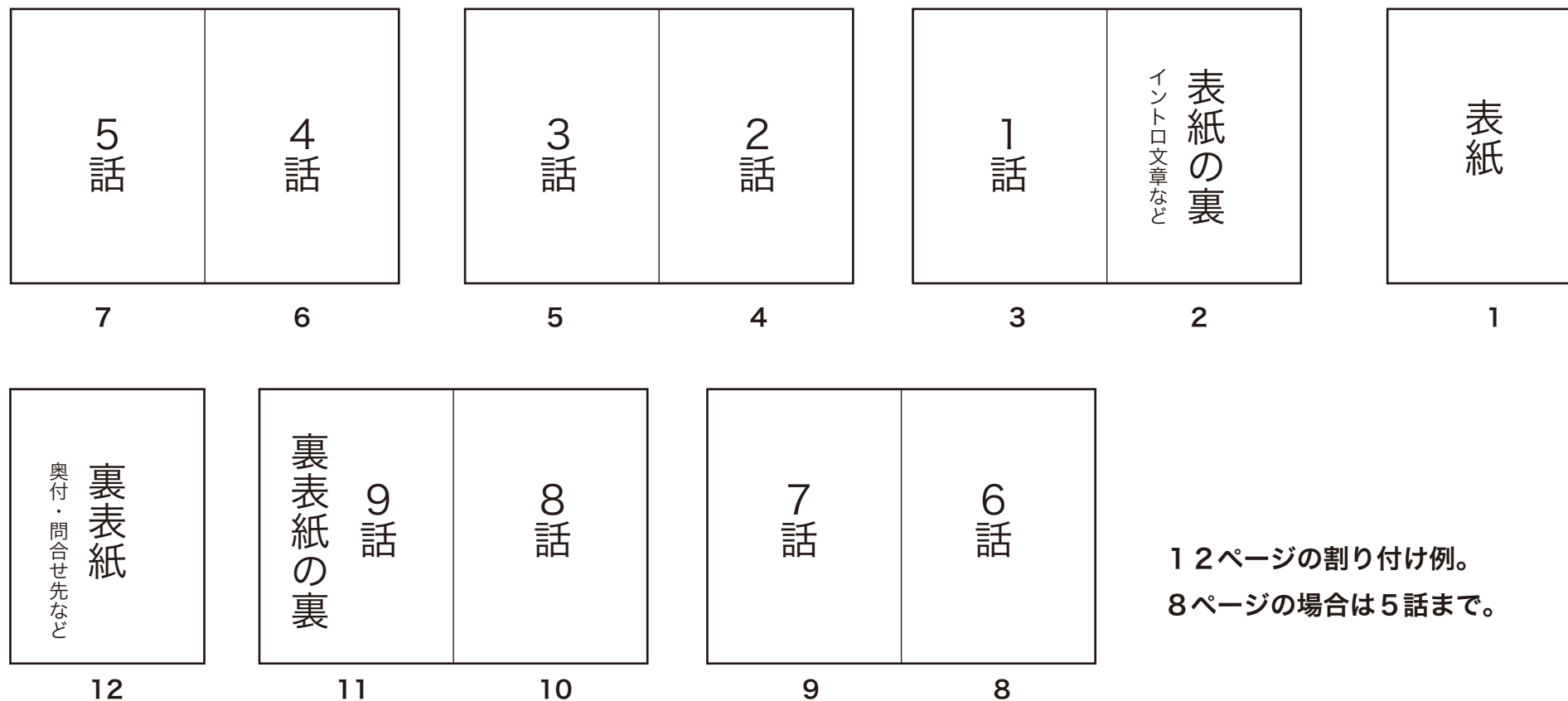
- ・公共性を意識しなくても、自分が新たに商売を始めることにも公共性がある、ということ伝える。
- ・いままで自治体がしてきたことを誰もが自分事として考えていこう、という啓発。
- ・「まるにわ」のようなパターンを意識。

## 8) エリアの価値が高まる話

- ・埋もれていた物件が生き、その連鎖が起こることでそのエリアに活気が生まれ、エリアのファンができ、住む人、来る人が楽しめるまちになる、という最終目標像を描く。
- ・わがまちに誇りを持つこと、経済的な活性化にも期待できることなどを盛り込む。

仕様：中とじA5版仕上げ 左開き（縦書き仕様）

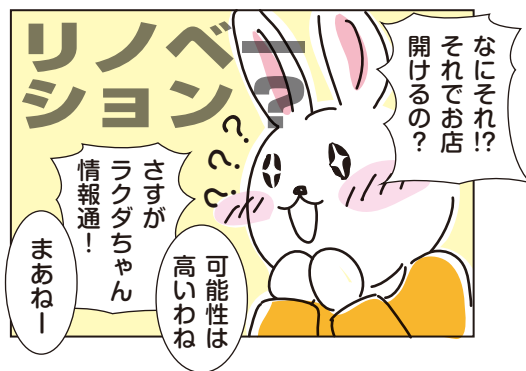
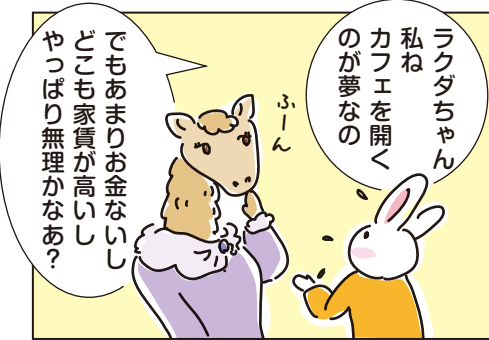
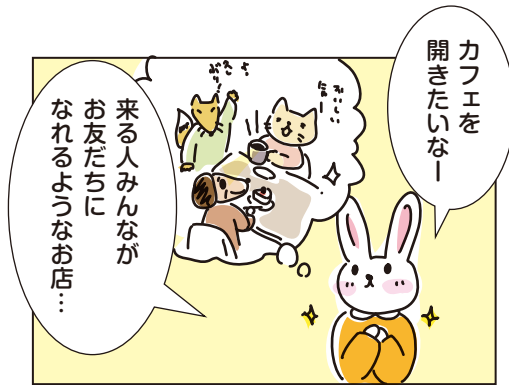
12P（A4用紙3枚）で最大9編、8P（A4用紙2枚）で最大5編 フルカラーまたは中面のみモノクロ



12ページの割り付け例。  
8ページの場合は5話まで。

- 登場人物は、一貫した人物を用いる
- 動物にするか、人物にするか・・・
- 「プレーヤー」「オーナー」などの言葉は使わない方向
- 見開き2Pを使った展開も可

「やりたいこと」は、がまんしない！



吾輩わがはいは猫である。名前はまだ無い。どこで生れたかと見当けんとうがつかぬ。何でも薄暗いじめじめした所でニャーニャー泣いていた事だけは記憶している。吾輩はここで始めて人間というものを見た。しかもあとで聞くとそれは書生という人間中で一番癡悪どうあくな種族であったそうだ。この書生というのは時々我々を捕つかまえて煮にて食うと

いう話である。しかしその当時は何という考もなかったから別段恐しいとも思わなかった。ただ彼の掌でのひらに載せられてスーと持ち上げられた時何だかフワフワした感じがあったばかりである。掌の上というものの見始めはじめてである。この時妙なものだと思っただ感じが今でも残っている。第一毛をもって裝飾されべきはずの顔がつるつるしてまるで薬缶やかんだ。そ

※解説文は最大 400 字程度。無理にスペースを埋めず、少ない文字数で済めば空間を空ける。